

令和 5 年(2023 年)10 月 12 日

部（局）長 各位

市 長

令和 6 年度（2024 年度）予算編成について（通知）

1 宝塚市行財政経営方針に基づく基盤強化の取組

宝塚市行財政経営方針では、財政基盤、組織基盤、デジタル・データ基盤の 3 つの基盤を、令和 3 年度（2021 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までの 3 カ年で強化するとしており、PDCA サイクルの強化や事業検証をはじめとする様々な取組を進めてきました。令和 6 年度の予算編成においても、引き続き行財政経営基盤の強化に全庁一丸となって取り組み、持続可能な収支均衡の財政運営を目指していきます。

2 本市の財政課題

令和 4 年度の決算は、実質収支で約 12.1 億円の収支プラスとなりました。これは歳入における市税の増が大きな要因ですが、行財政経営行動計画に掲げる基盤強化に向けての取組も、一定の成果をもたらしているものと考えています。

本市の歳入について、市税収入は現時点では、横ばいを見込んでおり、人口減少と少子高齢化の進行等を鑑みると、今後も大幅な増は見込めない状況にあります。また、本年 8 月末に総務省が作成した「令和 6 年度地方財政収支の仮試算」では、地方交付税は微増と見込まれるものの、臨時財政対策債は対前年比で 29.0%もの減が見込まれています。

一方、歳出について、建物施設・インフラ施設の老朽化に対応する維持・更新費用や、高齢化に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれるほか、物価高騰による影響にも留意が必要です。このような歳入・歳出の状況を見ると、本市の財政構造は今後も硬直化が続くと考えざるを得ません。

また、新ごみ処理施設の建設、地域医療の拠点である市立病院の経営健全化と建て替えの検討、土地開発公社の経営健全化など、課題は山積しています。

3 予算編成の基本方針

令和 6 年度（2024 年度）の予算編成は、本市が抱える様々な財政課題に対応していくため、行財政経営基盤を強化していくことを基本として進めます。

その上で、人口構成や社会経済情勢、技術革新等の変化に対応した持続可能なまちづくりに向けた取組の実施に向け、次の 2 点を重点方針とします。

（1）子育て世代に選ばれる人にやさしいまち

子どもがいきいきと育つ環境づくり、安心して子どもを育てられる環境づく

り、子育てと仕事の両立に向けた環境づくり、全ての人が暮らしやすい環境づくりを、ハード・ソフトの両面から進め、子育て世代に選ばれる人にやさしいまちづくりを推進。

(2) 宝塚らしいにぎわいと活力にあふれるまち

人口減少が進行する中においても、宝塚の魅力をさらに高め、市内外へ強く発信するとともに、地域経済の活性化を図ることにより、にぎわいと活力にあふれるまちづくりを推進。

また、今後、少子高齢化、人口減少により、税収の減少、職員の減少が見込まれます。これまでと同じ仕事の進め方では、多様化・複雑化する課題に対応していくことは困難です。そこで、令和6年度は以下の4つの視点を持って事業を進めることを基本とします。

- ・市民・事業者等との協働・共創
- ・業務の効率化、サービスの変革の推進
- ・歳入の増加、国・県の補助金等の最大限の活用
- ・成果・効果を検証できる指標や、事業の継続・見直しに係る要件の設定

特に、これからのまちづくりを進めるうえで重要な視点が、市民・事業者等との「協働・共創」です。市制施行70周年を機に、まちづくりの様々な分野で協働・共創がさらに進んでいくよう、「市民・事業者等の活動をつなぎ広げていくこと」、「市民が活躍できる場をつくること」を重視した、事業の展開を行う予算編成とします。